

# 真相解説

## ○事件の真相について

この物語はアンバーという女性が産まれた場面から始まります。  
彼女の両親は普通の両親でしたが、中学校を卒業したと同時に父親が浮気を原因に離婚からの再婚。  
それに競うように母親も再婚し、子供を同時期に設けます。  
母方の子は「コート」、父方の子は「フード」と呼ばれるようになりました。  
当人達は仲良しでしたが両親同士は競い合っており、過度な期待を子どもの身に寄せていました。  
当時習い事でフードに後れを取っていたコートは重圧に押しつぶされそうになりますが、  
自分の中に自分を認めてくれる存在、シロを作り出して日々の苦痛を耐えしのぎました。  
アンバーはそんな2人を救うべく貯金を開始していましたが、詐欺により断念させられます。  
そうして日々は移ろい、今度はコートの方が勉強面などで優れた頭角を現しました。  
フードは日々重くなる重圧に耐えかね、死ぬなら幸せなうちにと、自死を選択します。  
その第一発見者となったコートは自らの精神を守るために自分の中へと閉じこもりました。  
無味乾燥な日々を消化するだけの毎日を過ごす中、イマジナリーフレンドのシロはどうかしてコートを  
立ち直らせようと、記憶に蓋をしていることを利用して、自分勝手にも事件の乗っ取りを画策しました。  
彼はフードの自殺を他殺に書き換えることで、コートの怒りのやり場を作ろうとしたのです。

## ○絵本はなんだったの？

第一章で隠し場所を当てるとアンバーから内容について教えてもらうことができます。  
あれはアンバーから二人に向けた「親だけじゃなくて、私が見守っているよ」というメッセージでした。  
プレイヤーからはシロが第二章で出てきたときに関係あるのかと勘違いの種になったでしょうが……。

## ○あとがき

本作をプレイしてくださり、ありがとうございました。  
メッセージは充分に伝わっていると思うので、これ以上私からは申し上げることもないのですが、  
もし、あなたの周りに非常に強い悲しみや苦しみに視界を覆われている方がいたら、  
『『私は』あなたがなくなったら悲しい』と伝えてあげてください。  
暗闇に怯える人に必要なものは、遠くの星空よりも、近くの街灯なのです。

アルミヴ

制作

